

解説

解説 1 紙幣のシリーズ記号⁽¹⁾

日本では、明治以降に発行した紙幣に、改刷の都度、表1に示すようなシリーズ記号を付けている。アルファベットのシリーズ記号は、日本銀行が1946年に発行を開始したA券に始まり、2004年から発行しているE券に及んでいる。例えば、E券には“E”を先頭につけ、福沢諭吉の一万円紙幣をE一万円券、樋口一葉の五千円紙幣をE五千円券、野口英世の千円紙幣をE千円券と呼んでいる。現在、日本銀行が発行している紙幣は4種類ある。上述の3種類のE券と、2000年に発行を開始した守礼門のD二千円券である。

富士電機は、C券に対応するビルバリを手始めに製品化し、現在発行されている紙幣に対応している(図1)。

表1 紙幣の使用時期とシリーズ記号

使用時期	シリーズ記号
明治中期～昭和10(1935)年頃	甲, 乙, 丙, 丁
昭和17(1942)年頃～昭和20(1945)年頃	い, ろ
昭和21(1946)年以降	A, B, C, D, E



図1 ビルバリで識別した紙幣の推移

参考文献

- (1) “お金の話あれこれ”. 日本銀行. <http://www.boj.or.jp/type/exp/bn/are02.htm>, (参照 2010-07-07).

解説 2 エスクロ [escrow]

エスクロとは、紙幣または硬貨を一時保留する機能のことである。自動販売機などの紙幣識別装置(ビルバリ)や硬貨処理装置(コインメック)において、投入された紙幣または硬貨を一時的に保留し、返却レバーが操作された時

点で、保留している紙幣または硬貨を返却する仕組みである。

なお、投入された紙幣または硬貨そのものを返却するものを、現物エスクロと呼ぶ。

解説 3 FeliCa 技術

FeliCa (フェリカ) は、ソニー株式会社が開発した非接触 IC カード技術方式である。

非接触 IC カードのリーダ/ライタ (電子決済端末など) から電波であるキャリアを送信する。その電磁誘導により IC カードに電力を供給し、キャリアを変調することでリーダ/ライタとカード間の通信を行う (図1)。

非接触 IC カードの規格である ISO 14443 と同じ 13.56 MHz のキャリアを使いながら、FeliCa は、通信符号や変調率は異なる仕様を採用している。

FeliCa は 1 枚のカード (一つの FeliCa チップ) にデータの独立性・書込み完全性を保証しながら、複数のサービス (IC カード乗車券, 電子マネー, 社員証など) を搭載することができる。さらに、暗号による機密性の確保と高速処理が可能である。これらの特徴により、現在日本国内で

使われている IC カード乗車券や電子マネーのほとんどが FeliCa を採用している。

FeliCa チップはカード媒体にとどまらず、携帯電話・PHS にも搭載され、“おサイフケータイ” は、事業者をまたいでのサービスブランドとして定着している。

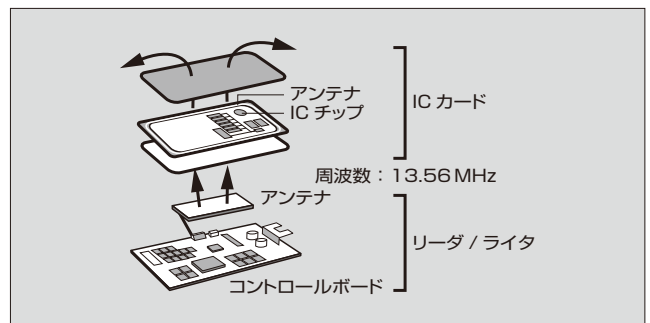


図1 FeliCa の動作原理

*本稿に記載の商標または登録商標は、354 ページ「商標」を参照のこと



*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する
商標または登録商標である場合があります。